

2025年6月25日
公益財団法人イオン環境財団

世界遺産を守るため10,000本を植樹 7月5日(土)第1回アンコール イオン ネイチャーパーク植樹を実施

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田元也 イオン株式会社取締役兼代表執行役会長以下 当財団)は、カンボジア シェムリアップにおいて7月5日(土)「第1回 アンコール イオン ネイチャーパーク植樹」を実施します。

当財団は、2002年からカンボジア国内の各地でボランティアの皆さまと植樹を行っています。アンコール・ワット遺跡群のひとつであるチャウスレイ・ヴィヴォル遺跡と参道の周辺、シェムリアップ中心地の森林公園、イオン・シアヌーク博物館周辺、タケオ州のプノンタマウ野生生物保護センターほか、世界遺産の環境保全と森林再生、生物多様性保全を目的に、これまで4,200人のボランティアの皆さまと34,000本を超える地元の樹種を植えています。

2025年からの5年計画にて、アンコール・トム遺跡周辺において、風雨から世界遺産を守るとともに生物多様性保全を目的に植樹を実施します。第1回の本年は、カンボジアと日本両国のボランティア800人が参加し、地元の樹種10,000本を植樹します。

当財団は、豊かな自然を次代に引き継ぐため、これからも植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

期 日	2025年7月5日(土) 8:30~10:00			
場 所	カンボジア シェムリアップ アンコール・トム遺跡周辺			
本 数	10,000本			
参加者	800人			
樹 種	マングローブ、カリン 含め18種			
主 催	公益財団法人イオン環境財団 アンコール地域遺跡保護管理機構			
協 力	イオン カンボジア、イオンモール カンボジア イオン スペシャライズドバンク カンボジア、イオンディライト ベトナム			
出席者 (予定)	カンボジア王国 文化芸術庁	長 官	スム	マップ 様
	駐カンボジア日本国大使館	特命全権大使	植野	篤志 様
	シェムリアップ州	副知事	ユン	リンネ 様
	王立プノンペン大学	副学長	オム	ラヴィ 様
	公益財団法人イオン環境財団	理 事	岡田	尚也
	イオン株式会社	アセアン担当責任者	岩村	康次
	イオン カンボジア	社 長	シン	ピセイ
	イオンモール カンボジア	社 長	遠藤	史彦
	イオン スペシャライズドバンク カンボジア	社 長	宇佐美	智弘
	イオンディライト ベトナム	社 長	高見	尚代

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、１９９０年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の４つの事業を中心に活動に取り組んでいます。現在は、持続可能な地域の実現を目的に新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで変化した森の再生を目的に、中国万里の長城などアジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。１９９１年からのイオン全体の植樹の累計本数は、１，２７６万本を超えています。（２０２５年２月末時点）

【カンボジアにおける社会貢献】

■植樹事業

- ・２００２年、２００４～２００５年、２００７年「アンコール・ワット植樹」
イオン１％クラブが主催した「カンボジア学校建設」事業に併せて、世界遺産に指定されているアンコール・ワット周辺で植樹を行いました。累計約１，１８２人の日本とカンボジアのボランティアの方々のご協力のもと、７，６００本の苗木を植えました。
- ・２０１０～２０１１年「アンコール・ワット遺跡群 チャウスレイ・ヴィヴオル遺跡植樹」
アンコール遺跡群チャウスレイ・ヴィヴオル遺跡周辺の森林は、生活伐採で荒廃した状態で放置され、風から遺跡を保護する機能が低下しつつありました。アンコール遺跡群を管理するアプサラ機構とイオンは、遺跡周辺の森林の再生を実施すべく、日本からのボランティアと地元民の方々５８０人とともに５，２６６本の植樹を実施しました。
- ・２０１４年６月イオンモールプノンペンふるさとの森づくり（イオングループ）
店舗オープンに先駆け「イオン ふるさとの森づくり」が開催され、地域の皆さま１，５００人とともに約１０，０００本の植樹を行いました。
- ・２０１５～２０１７年「カンボジア・プノンペン植樹」
プノントマウ野生生物保護センターは、プノンペンから約４５km 南方に位置するカンボジア最大級の動物園であり、現在、絶滅の危機にある種を含む９８種、約１，２００もの動物を保護している他、市民の憩いの場ともなっています。内戦や生活伐採により変化した広大な保護センター敷地内の森林を再生するため、３年間の累計２，３３０人のボランティアの方々と２１，０００本の植樹を行いました。
- ・２０１９年「アンコール・ワット（バタイクデイ寺院）植樹」
アジア１０カ国１０大学８０人の大学生がフィールドワークを通じて「持続可能な平和構築」について学ぶ、第８回「アジア学生交流環境フォーラム（Asian Students Environment Platform；以下ASEP）」において、植樹を行いました。



主催	植樹地	年	本数	参加者
イオン環境財団	アンコール・ワット遺跡群	2002, 2004 2005, 2007	7,600	1,182
	イオン・シアヌーク博物館	2007	43	20
	チャウスレイ・ヴィヴォル遺跡群	2010-2011	5,266	580
	プノンタマウ野生生物保護センター	2015-2017	21,000	2,330
	バティクデイ寺院	2019	500	80
イオンモール ふるさとの 森づくり	イオンモールプノンペン	2014	10,000	1,500
	イオンモールセンソックシティ	2018	12,000	2,000
	イオンモールミエンチェイ	2022	8,000	1,000
合計			64,409	8,692

■名誉理事長 岡田卓也がカンボジア王国友好勳章大十字型章を受章（2010年）

長年にわたるカンボジア王国への環境・社会貢献活動がカンボジアの経済、文化交流の発展に貢献したと評価を受けカンボジア王国より2007年に「Le Grand Officer（将校章）」を、また、2010年には最高位である「Royal Order of Sahametrei Grand Cross（友好 勳章大十字型章）」を親授されました。



■助成事業

世界各地で地域ボランティアと共に環境活動に取り組んでいる非営利活動団体を対象に、活動費の一部を助成しています。2024年の第34回イオン環境活動助成では、110団体8,401万円を助成しています。その1つとしてカンボジアで活動する「特定非営利活動法人 アジアの誇り・プレアビヒア日本協会」は、カンボジア・タイ国境近くの世界文化遺産であるプレアビヒア寺院周辺にて、現地の人々と協働し、植樹、下草刈り、給水等を行い、自然環境保全に取り組んでいます。



■環境教育・共同研究事業

[アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）]

（2012年～2022年）

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、地球環境について国境を越えて討議をするフォーラムで10年間に10か国763人が参加しました。カンボジアからは、王立プノンペン大学が2015年から参加し、第8回（2019年）は幹事校を務めました。



【イオングループの社会貢献活動】

■「バットンバン義肢センター」支援（１９９８年～２０００年）

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン１％クラブ）は、日本赤十字社とのパートナーシップのもと、１９９８年より３年間にわたりカンボジア・バットンバン義肢センターを支援しました。バットンバン義肢センターは、地雷で被害を受けた人々へ義肢の支給や、リハビリを通じて社会復帰を支援する施設で、イオングループ店舗、事業所での募金及びイオン１％クラブからの寄付金をあわせ同センターに１億７,３００万円を寄付し、支援にお役立ていただきました。

■学校建設支援事業（２０００年～２００３年）

長く続いた内戦によって失われたカンボジアの教育基盤の早期回復を願い、２０００年よりイオングループ店舗や事業所での募金を実施し、イオン１％クラブからの寄付金をあわせ総額３億円を日本ユニセフ協会へ寄付しました。日本ユニセフ協会とのパートナーシップを柱に１５１校を建設し、これまでに約３７万人の子どもたちが学校を卒業しています。



■「イオン・シアヌーク博物館」寄贈（２００７年）

「イオン・シアヌーク博物館」は、上智大学アジア人材養成研究センターが２０００年、２００１年の期間に発掘したアンコール王朝期の仏像を保存・展示すべく、イオン１％クラブの寄付と上智大学の石澤良昭教授チームとアンコール地域遺跡保護管理機構の協力のもと建設されました。カンボジアの文化遺産をカンボジアの方々の手により研究・保存いただくために国へ寄贈し２００７年１１月の完成式典にはシハモニ国王陛下もご臨席されました。



■イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

カンボジア等の子どもたちに安全な水を供給するため、全国から寄せられた募金とイオン１％クラブからの拠出金を、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて寄付しています。給水施設の設置等により、遠方への水汲みに時間をとられ学校の授業に参加できない子どもたちや、健康を害する恐れのある物質を含む地下水を生活用水として使う子どもたちを、教育・健康の両面でサポートしています。2024年度は4,715万円を贈呈し、これまでにカンボジア・ミャンマー・ラオスの累計64万人に安全な水を供給しています。

■ティーンエイジ アンバサダー／イオン スカラシップ

イオン１％クラブは、日本と海外の高校生が互いの国を訪問し、国際的な相互理解と進歩を深める交流プログラムとして「ティーンエイジ アンバサダー」を1990年より実施しておりこれまでに、日本を含む18カ国2,521人が参加しています。また、「イオン スカラシップ」では、アジアの大学生を対象にこれまでに延べ9,457人に奨学金を給付しています。2024年度はカンボジアの学生23人を含む7カ国467人奨学金を給付しました。